

# ノーベル賞受賞者の論文分析について

平成28年11月29日  
科学技術・学術政策局  
科学技術・学術戦略官(国際担当)付

近年の日本出身のノーベル賞受賞者数は増加しており、特に自然科学系のノーベル賞受賞者数は米国に次いで2番目に多くなっている。

グラフ1: 国別のノーベル賞数の推移

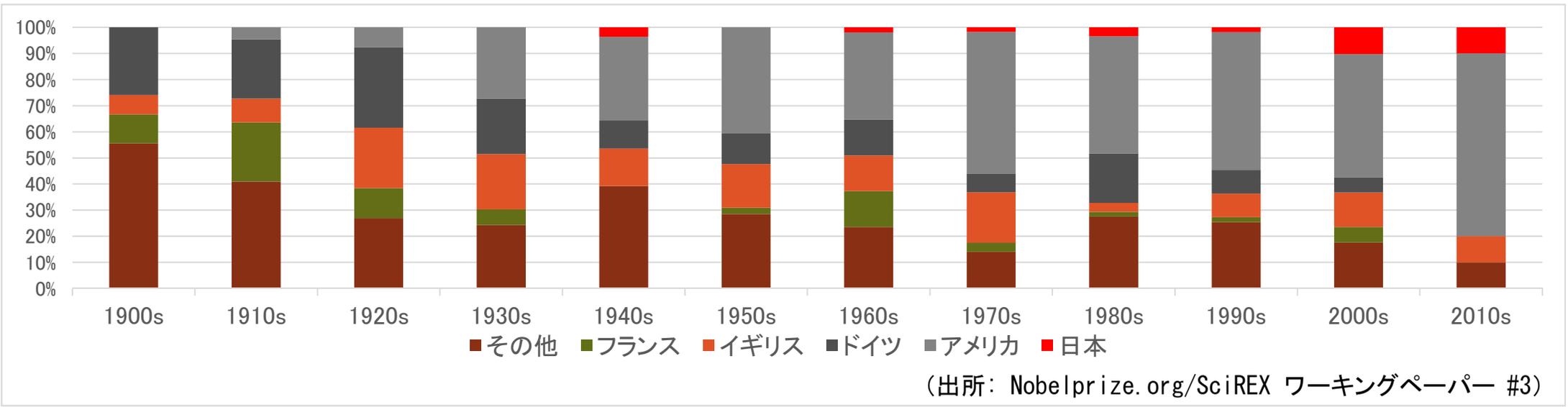


表1: 国別のノーベル賞(自然科学系)受賞者数

	1901 - 1990年	1991年 - 2000年	2001年 - 2016年	合計
米国	156	39	55	250
英国	65	3	14	82
ドイツ	58	5	6	69
フランス	22	3	7	32
日本	5	1	16	22

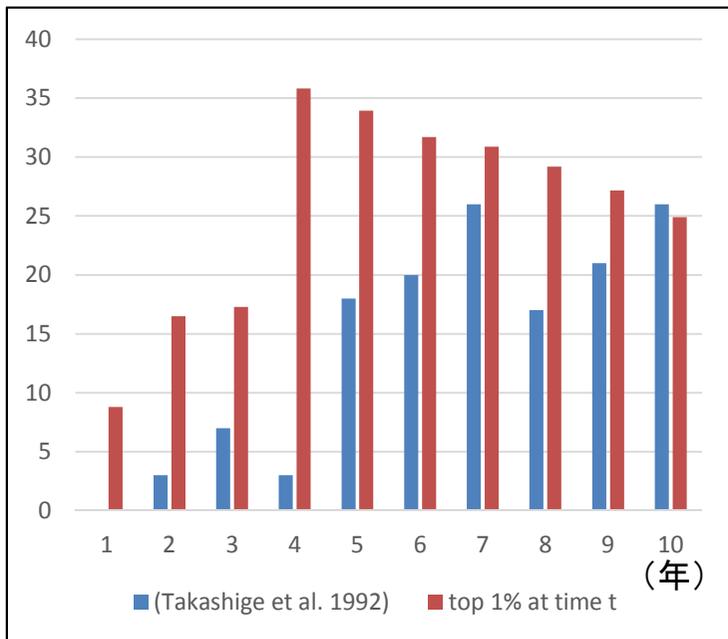
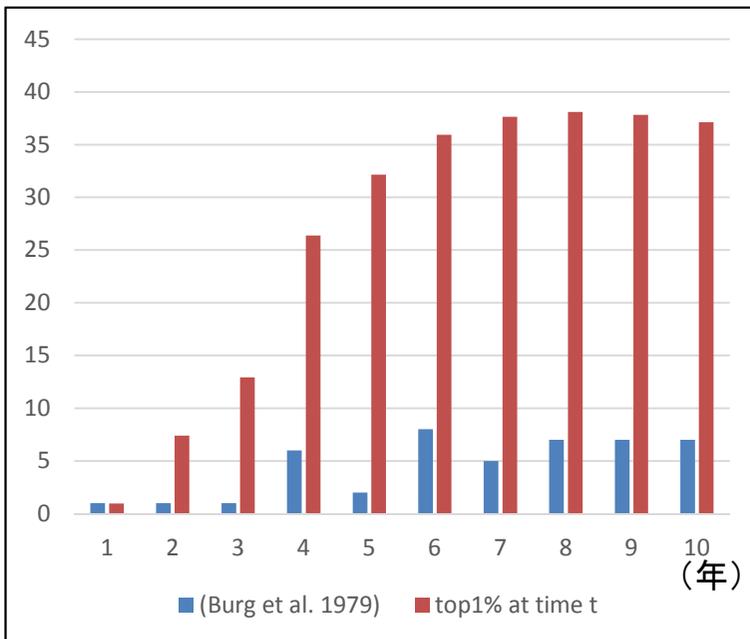
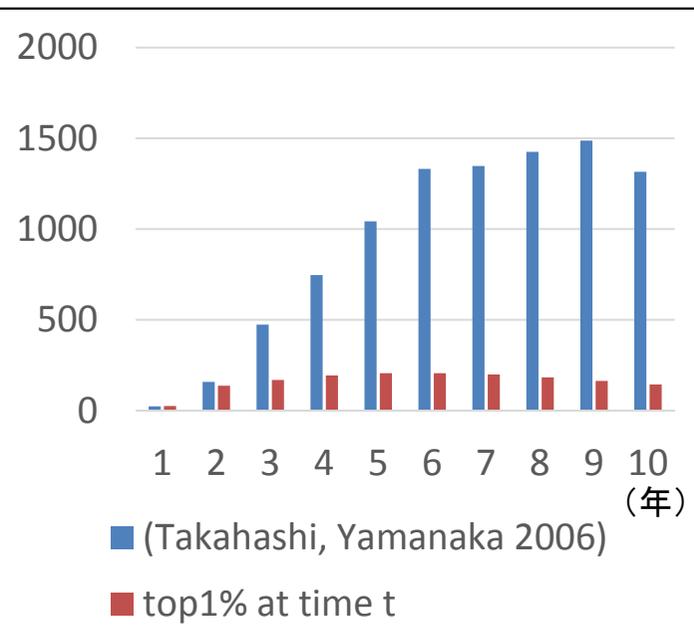
(注1) ノーベル財団の発表等に基づき、文部科学省において、試行的に取りまとめている。  
 (注2) 日本人受賞者のうち、2008年物理学賞受賞の南部陽一郎博士、2014年物理学賞受賞の中村修二博士は、米国籍で受賞している。  
 (注3) 日本人以外は、ノーベル財団が発表している受賞時の国籍(二重国籍者は出生国)でカウントし、それらが不明な場合等は、受賞時の主な活動拠点国でカウントしている。  
 (文科省作成)

ノーベル賞受賞に至る主要な研究論文は、論文発表から10年後までの期間において、被引用数が該当分野におけるトップ1%被引用論文に含まれるものが多い。

### 山中伸弥教授

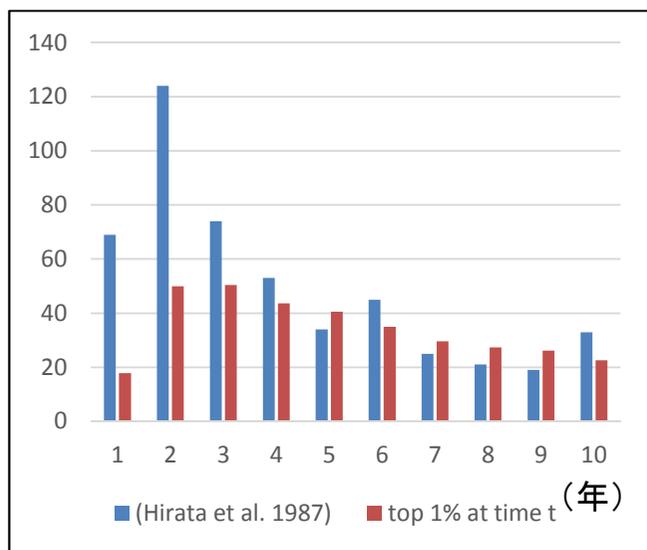
### 大村智教授

### 大隅良典教授

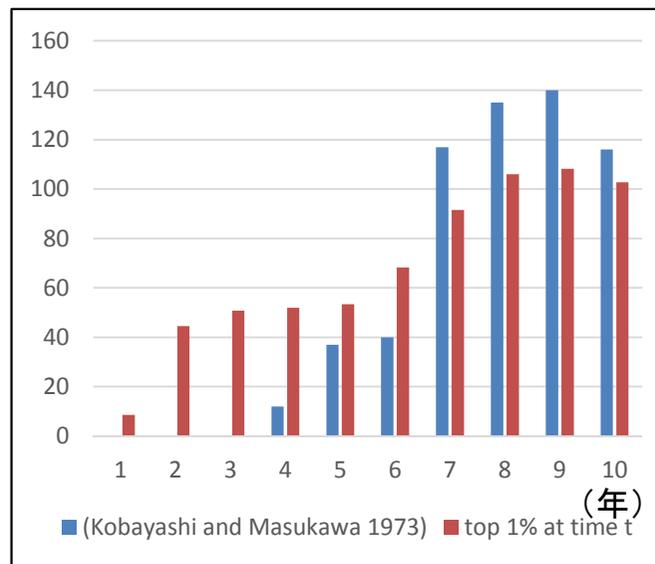


縦軸: 被引用数  
 横軸: ノーベル賞受賞に至る主要な研究論文発表の経過年数 = {1...10}

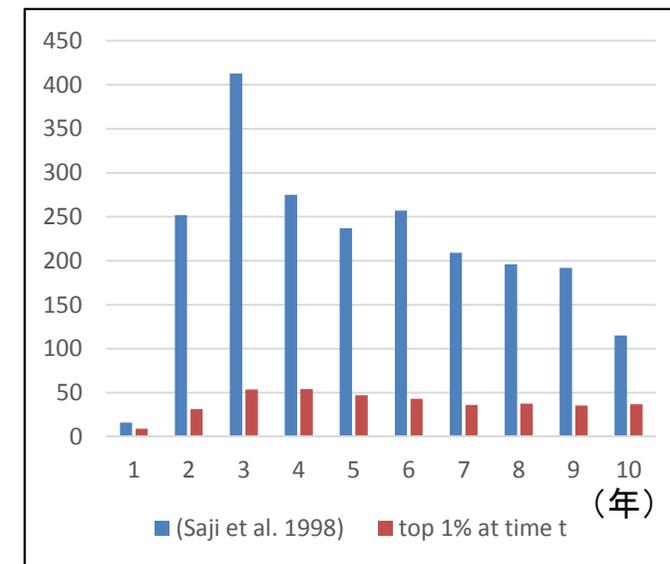
## 小柴昌俊教授



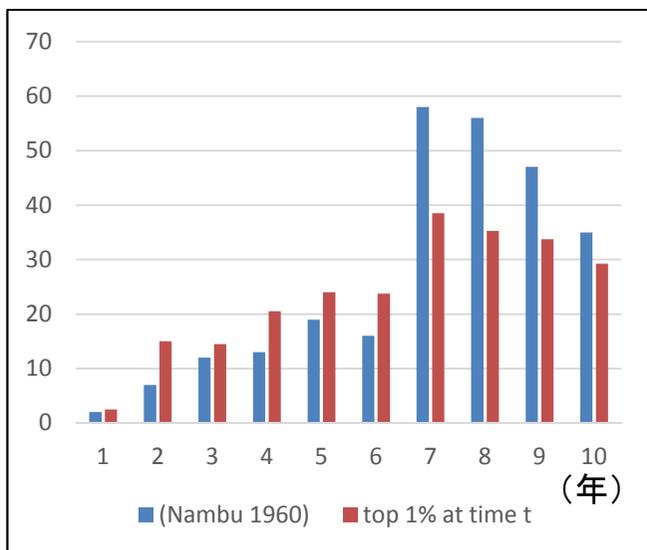
## 小林誠&益川敏英教授



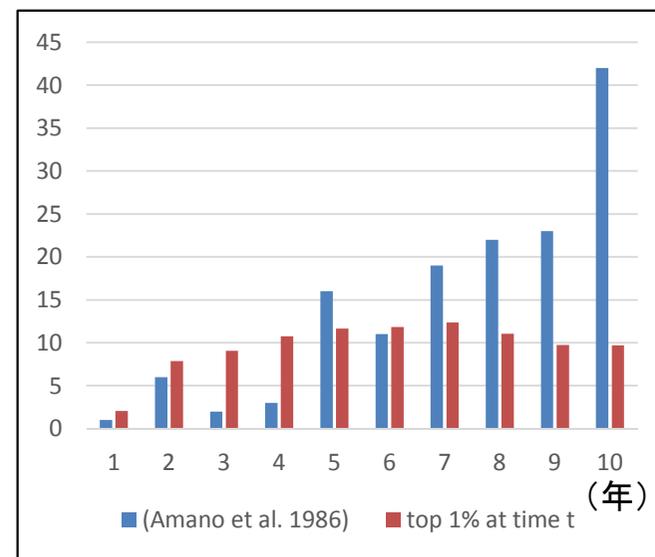
## 梶田隆章教授



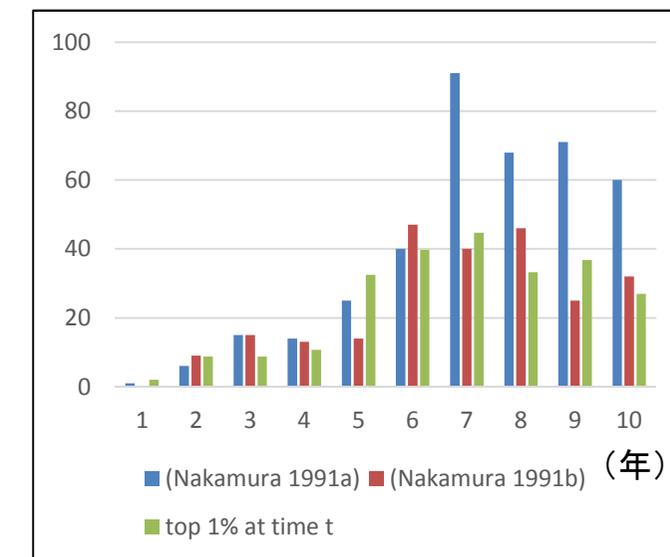
## 南部陽一郎教授



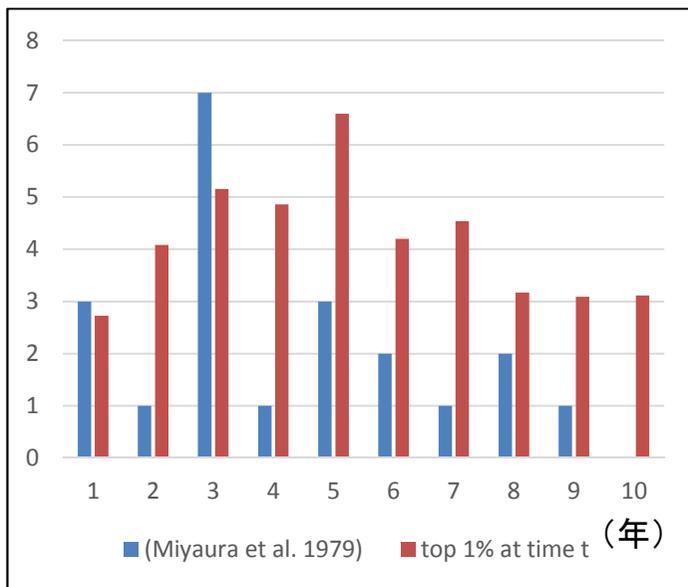
## 天野浩&赤崎勇教授



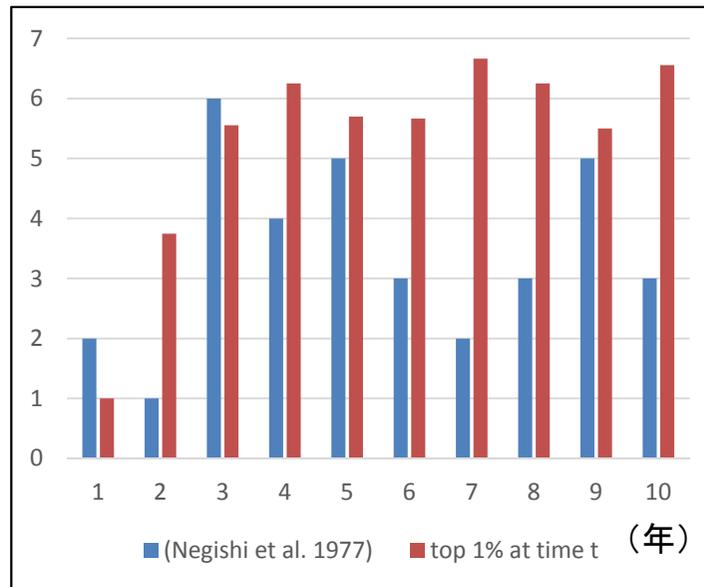
## 中村修二教授



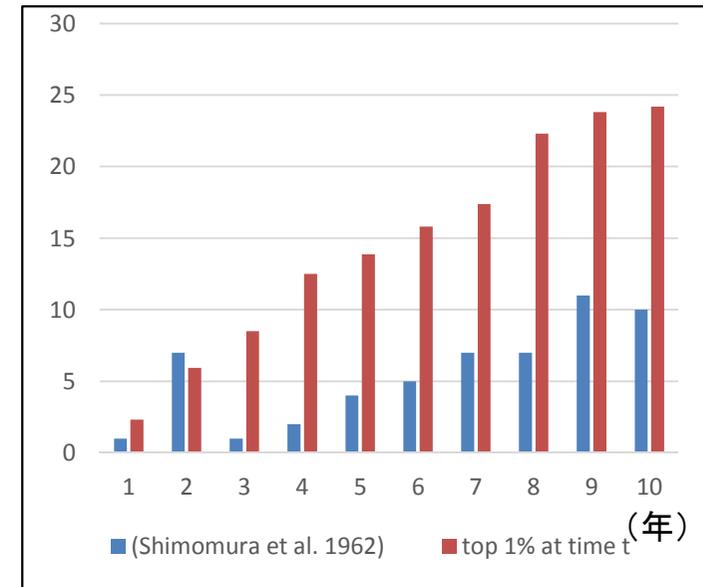
## 鈴木章教授



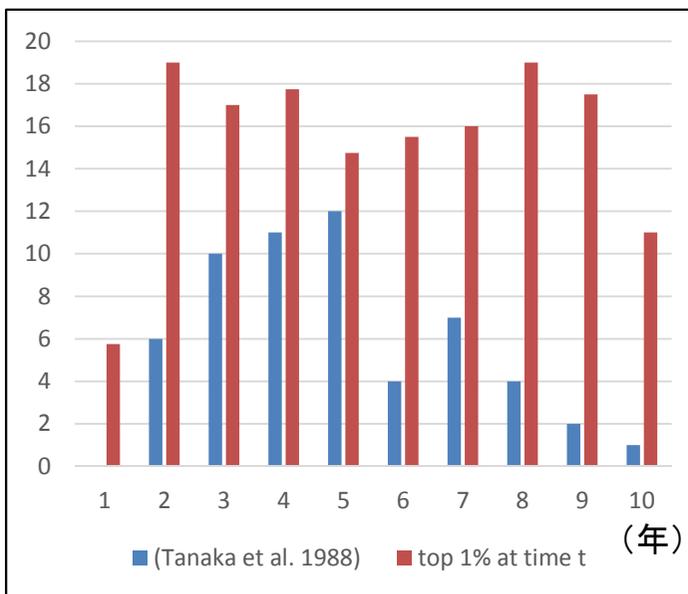
## 根岸英一教授



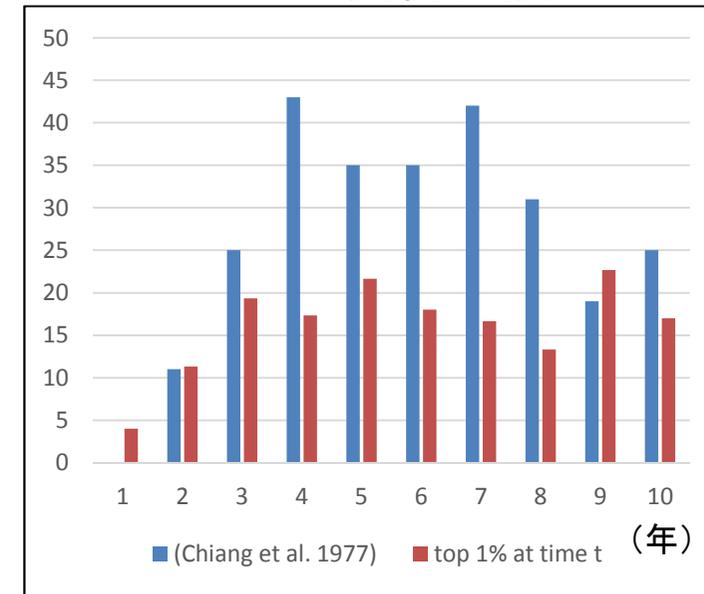
## 下村脩教授



## 田中耕一氏



## 白川英樹教授



## 野依良治教授

